

「森銑三刈谷の会」だより No. 32

発行 2024/6/15 (月刊・メールでの投稿歓迎)
例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銑三刈谷の会
共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu_s@katch.ne.jp

32:2024/5/18 (土) 村瀬典章氏「刈谷図書館と村上文庫展」: 参加 12 人

「刈谷図書館と村上文庫」

村瀬典章

「刈谷図書館と村上文庫展」の展示解説とそれにまつわる森銑三による村上文庫整理過程の疑問点について説明をした。

1 「刈谷図書館と村上文庫展」の展示解説

村上文庫等刈谷市中央図書館が所蔵する古典籍データベースの公開に併せて、今回の展示を開催した。

展示内容は、刈谷図書館と村上文庫とは強い関係性があるため、刈谷図書館創立の経緯と村上文庫の紹介とした。

村上文庫とは、刈谷藩の御殿医を勤めた村上忠直、忠幹、真武、忠順、忠浄の4代5人(資料村上家系図・村上忠順肖像画)が写したり、書いたり、購入したりして収集したものである。大正4年亀城尋常高等小学校の校長である高須鉦吉が図書館建設の議を出したことにより、図書館創立へと進んだ。この時すでに村上文庫の書籍を自費で購入していた宍戸俊治と藤井清七両氏が建設費と書籍の寄付を刈谷町に申し出ていた。のちに宍戸氏に対して建築費と書籍の寄付と別々に叙勲の褒状が出されている(資料褒状)。

図書館開館日が決まったのが、大正6年6月20日で、その翌日に図書館前で関係者の記念写真を撮っている(資料開館の写真)。実際開館したのは7月3日であるが(資料開館式の写真)、その時点ですでに図書館碑が建てられている(資料図書館碑拓本)。碑文の文言は4月頃に作られており、そのため碑文に「六月某日開館」という矛盾ができてしまった。

村上文庫の紹介については、分類上特徴のある国学、医学、文学、和歌の4つに分け、それとは別に村上文庫に入ってくる前の旧所蔵先(者)であった文礼館(刈谷藩藩校)、枇杷島の青物問屋の野口道直、尾張藩士の神谷克楨(三園)の3つに、併せて7つに分け、それぞれ代表的なものを展示した。

2 刈谷図書館と村上文庫

森銑三が刈谷の図書館創立のための村上文庫の整理を始めたのは大正5年6月17日からである。日記によ

ると、6月19日の途中で筆が変わっており、翌20日の末尾に「森生記」とあるところから、20日に村上文庫の整理を森銑三が任されるようになったが、その前日分の記載が午前中で終わっていたことから、20日に前日の午後分を追加して記入したものと思われる。

図書館費としての予算を調べてみると、大正4年度分から付いている。しかし、この年は高須鉦吉が図書館建設の議を述べた直後で、形式的にとった予算で、需用費の雑費として20円50銭執行しているのみである。これは高須鉦吉が図書館建設のための調査費用や目録作成のための関連機関への郵便代であろう。5年度には館長給料と司書給料が計上されているが、実際同年6月から整理業務が始まっているので、6月分からの給料が支払われている。他に雑給として使丁給一人分が大正5年・6年度計上されており、これが森銑三に支払われる賃金としてあるもののなぜか執行されていない。森銑三の自伝(講演会での講演記録)には、途中から宍戸先生が給料を出して下さったとあるが、そもそも町の予算からは支払っていないことになる。これは推測するしかないが、何らかの事情で、当初は高須鉦吉が支払っていたのではないだろうか。そこで、開館したのちもまだ台帳記載ができていなかったということで、秋口からは宍戸俊治が代わって支払っていたのではないかと思われる。

中央図書館「刈谷図書館と村上文庫展」を見て

鈴木哲

展示は見ていたが、村瀬さんのご説明で納得させられる点が多かった。レイアウトも考えられている。村上文庫書庫写真が懐かしい。刈谷町立刈谷図書館日誌により森銑三の図書館勤務は1916/6/17-である。国史大辞典13(1992)、刈谷市史(1993)3:699、森田誠吾(1998)『明治人ものがたり』などが1915年-と誤っている。

岩波書店を通じ、森田(1998)「大正四年」「開かれたばかりの刈谷町立図書館」(p.71)は「大正五年」「開館前の—」ではないかと、『森さんこそ真の学者』…昭和30年」(p.81)論拠を尋ねた。著者(1925-2008)逝去の報と指摘感謝の返信が2024/5/20編集部からあった。

村上文庫の実物を目にして

神谷明子

村上文庫の実物は、内容はわからないけれど迫力がありました。説明文で太田垣蓮月尼のことが書いてありましたが、私の茶道の師匠の家に蓮月尼の作だろうと言われる茶碗がありましたので、近くに感じました。文庫は何代もかかって集められたと聞き、また感激でした。村上忠順が江戸城に足止めされていたと聞き、和宮さんとか天璋院さんにお会いしたのかかしら？なんて想像し、ドラマを見ているようでした。

「刈谷図書館と村上文庫展」を見て

飯田芳子

今回、展示方法として平台に四分割して図書が分類されているのが見やすくとても良かった。両壁面には村上家系図、扁額、図書館開館式などの写真があり、平台の分類が全体を一つにまとめている感じがかった。

忠順の写しの医書『神遺衆古秘法方録』は「六月朔創業同十日卒業」と僅か10日間で写し終えていると知り感動した。また、『重訂解体新書』は杉田玄白の指示でその高弟大槻玄沢により書かれたとの説明書きがあり、開かれた頁の項目を見て一読したいと思った。

三河の図書館、西尾、刈谷、豊橋の図書館が個人の努力から図書館へと発展している様子が窺えた。

村上文庫整理の話をお聞きして

神谷美恵子

興味深い話が聞けて面白かったです。村上文庫の整理の時に、銑三さんは夢や希望、出来ることを惜しみなく子どもたちに与えられていたような気がしました。

村瀬氏の話をお聞きして

河橋育実

展示コーナーの解説は良かったです。目で見ただけでは分からないことも解説してもらって、そうなのかと思うことも沢山ありました。

文庫整理のお話の中で、目録作りが目的にしては時間がかかり過ぎということでしたが、銑三さんは完璧主義の所もあり、きっとすべての本と内容を把握した上で分類もされたかったのではないかと想像します。

高須鉦吉先生の理解もあるし、分からないことは宍戸俊治先生を訪ねて教えを乞うています。そして銑三さんのご家族も応援していらっしゃる。

役場は冷たい態度だったかもしれませんが、若い銑三さんの周りは銑三さんを温かく見守っていたと思います。

銑三さんにとっては村上文庫との出会いがあればこそ、後々のご活躍があるのだと思います。

村瀬氏の話をお聞きして

神谷磨利子

村上文庫は村上忠順のみでなく四代五人によって収集・書写されたものであり、医学関係の書籍は忠順の祖父忠直の蔵書印が29%もあるという説明が印象的であった。図書館用建物二棟と村上文庫の書籍を藤井清七氏と共同で寄付した宍戸俊治氏への褒状や、野口道直の丸に幡の字の蔵書印など興味ある展示が多かった。

森銑三の村上文庫目録作りに関して、図書館や議会等の統計資料を加味されての説明が大変興味深かった。

なお、当日村上ご本家の村上氏も参加して下さり、村上文庫の蔵書の収集に当たり娘婿深見篤慶の援助があったことなど解説して下さいました。

予定 2024

33:2024/6/15(土) 鈴木哲「森銑三の百科事典項目『大田南畝』」

34:2024/7/20(土) 長瀧秀雄「森銑三未発表草稿『子供等のこと』を読む」

35:2024/8/17(土) 正木敦子・神谷磨利子「金子民雄(1936-)書簡から探る森銑三と掃苔会」

2024/9/15(日) 刈谷市郷土文化研究会談話会
神谷磨利子「森銑三と『刈谷図書館所蔵 貴重図書目録』(1932)」

36:2024/9/21(土) 河橋育実「森銑三(1895-1985)と外山滋比古(1923-2020)」

37:2024/10/19(土) <募集中>

38:2024/11/16(土) 鈴木哲「森銑三の西鶴『一代男』一作説と暉峻(てるおか)康隆(1905-2001)」

2024/11/23(土) 刈谷市郷土文化研究会文化講演会
塩村耕「村上忠順と森銑三」[仮題]

39:2024/12/21(土) 神谷磨利子「森銑三(1895-1985)と師・井上通泰(1866-1941)」